

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社 ケアインベーション		
事業所名	グループホーム ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなた日和の掲げる理念のもと、日々ご入居者様とともに生活を送っています。ご入居者様の様々な要望を叶えられることができるように、また、ひなた日和に入居してよかった。と思っただけようスタッフ一同研鑽を重ねあっています。地域の方々の温かなサポートもあり、季節ごとのイベントにも参加ができています。地域の方々に気軽に立ち寄りいただけるようななかかわりが持てるように環境をコツコツと作り上げています。ひなた日和が今まで以上にご入居者様、家族、地域に浸透できるよう、風通しの良いゆったりとした環境の提供を目指しています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は同法人経営の市内5箇所にあるグループホームのひとつで、開所より3年目を迎える事業所である。事業所内研修のほか、経営者自らが地域の認知症研修の講師役になり、実際のケアの仕方や声のかけ方などを利用者役と支援者役のどちらも演じることで相手の立場に立った支援を目指す指導を行うなど、認知症の理解を深め認知症ケアの実践を地域に伝える活動を担っている。事業所内は和気あいあいとした雰囲気、利用者の誕生日にはデコレーションケーキやパンケーキ、ラスク等を利用者と職員が焼いたりトッピングするなど、楽しい時間を共有している。食後の団欒の時間は利用者や重謡や歌謡曲を歌ったりお手玉をしたり、片付けを手伝う利用者には励ましや、ねぎらいの言葉かけをして、利用者の関心や嗜好を見極めて支援している。職員の立場や経験に応じて人材育成にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年1月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホール間の掲示板に理念を掲げ実践に繋げていけるよう努め、職員は理念を共有し日々の生活の中で信頼関係を築いていけるよう実践している。	理念と職員像を事務所とホール間に掲示している。利用者が心地よい場所であること・存在や役割を大切にされる場所・やりたいことをさり気なく支えていく等の理念は、利用者への言葉かけや支援態度に取り入れ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し夏には子ども神輿が来所し休憩場所の提供をしている。近隣施設の行事の際には回覧板を回していただき参加し地域の方々との交流を図っている。	自治会に加入し、神社の屋台を見学に行ったり、地域の敬老会に参加するなど、地域との交流を行っている。近所の方が野菜を持ってきてくれるなど、地域との気軽な相互交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の方から認知症の人の理解や接し方の相談を受けた場合、助言等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し利用者の動向、活動状況、事業報告のほか他業種の方への参加への呼びかけを行い意見交換しサービス向上に繋げている。	利用者・家族・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・市職員等の参加により、年6回開催している。議題に応じて消防署員や警察官も参加している。災害時の対応について等、活発な意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない、確認したいことがあるときは連絡を取り協力関係が築けるよう努めている。	更新時の手続きは市の窓口に出向き、情報交換や相談をしている。運営推進会議での来訪時などを通し、利用者の日頃の様子や地域の福祉資源についての情報を得て、常に協力関係と連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしない介護を心掛け、その考えを共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者への言葉使いが適切であったかどうか、休憩時間に注意し合い共通認識を高めている。玄関は安全を考慮し施錠しているが、夏場は開放できる網戸などで見守り対応している。身体拘束をしないケアに関する研修を実施し、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の日々の状況を把握しちょっとした変化を見過ごすことがないようスタッフ同士声を掛け合い情報を共有しまた、職員会議などで虐待防止についての話し合いを行っている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要性に応じて対応、支援ができるように取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご本人、ご家族様と一緒に説明を行い、不明な点、不安な点をわかりやすく説明を行い、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際、電話があった際には日々の状況を伝え、いつでも意見・要望を伺い反映できるよう努めている。	家族の訪問時に利用者の生活状況や健康状態に関することを伝えている。家族からは利用者の入浴状況についての質問や要望等があり、出来るだけ希望に応えられるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や、日々の会話等でも意見を聞き反映できるよう努めている。	管理者は常に職員の気付きを運営に活かしている。月1回の職員会議において、不穏な状況にある利用者に対するケアの仕方や、求人等、人事に関する事など、様々な意見があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が心身に負担なく働いていくことができるように配慮し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会に参加し職員のスキルアップに努めまた働きながら職員同士がケアについての話をし互いにスキルアップできるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度グループ全体での定例会議にて交流を図りスキルアップに努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、在宅、施設へ訪問し、ご本人の思いを伺い安心してサービスを利用していただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の困っていること、要望、不安なことを伺い安心して利用していただけよう信頼関係に努めている。		
17		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に「グループホーム」の説明を行い、必要なサービスと一緒に検討し、他サービスの利用も含め担当ケアマネージャーとも相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることはしていただき出来ないことは無理なく一緒に行くことで支えあう関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際には、日々の状況を伝え、共に支えていけるような関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会による馴染みにの方との時間や馴染みの場所への外出など継続していけるように努めている。	ドライブがてら、以前住んでいた家の近所やお店、お墓参り等に出かけたり、馴染みの理・美容室への付き添いの他、訪問美容を利用する利用者もいるなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し座席の配置や、スタッフが間に入ることで入居者同士がかわりを持てるよう努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じ相談、支援が行える関係性になれるよう努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議での検討や日々の会話の中での希望、意向の把握に努めている。	利用者との会話を大切にし、日々の表情や会話の中から好きなことを勧めてみるなど、思いを汲み取る支援をしている。家族や知人からも意見を聞き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント資料やご家族様、ご本人からの情報や会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を配置し現状の把握、心身の状態把握に努め気づきがあった際はノートを活用し情報共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人、必要な関係者との話し合い、意見、アイデアをもとに現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族のニーズを確認した上で、職員の気づきや医師の意見も参考に介護計画書を作成している。見直しは更新時としているが、状況等に変化が生じた場合は随時行っている。モニタリングは3ヵ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他者が記録を読んだとしても、その方がわかるような具体的な記録がされるように取り組んでいる。情報共有し介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に配慮し、その時のニーズに柔軟迅速な対応、サービスが行えるよう取り組んでいる。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の把握やボランティアとのかかわりが増やせていけるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望がある場合はかかりつけの医療機関を受診していただいている。特にない場合は協力医であるきねぶちクリニックにて支援している。	かかりつけ医の受診は家族に依頼しているが、家族の対応が困難な場合は職員が付き添い受診している。月1回協力医による訪問診療を受けている方もいる。医師から送られる受診状況等の情報を家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを使用し入居中の状況を伝え情報交換、相談に努めている。またご家族様と連絡、相談しあい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人と話し合う機会を持ち重度化、終末期に対応できる体制を整えていきたい。	契約時の早い段階から事業所として出来ることと出来ないことを説明している。医療行為が必要な場合には、医療機関や介護老人福祉施設への住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ全体で年1回、救命救急の講習がありスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合避難訓練を行っている。内、1回は消防署の立会いである。	年2回総合避難訓練を実施し、その内1回は消防署指導のもと実施している。職員全員が消火器の使い方の訓練を受けている。中学校を避難場所とし、運営推進会議の日を訓練日に合わせ実施している。緊急連絡網も整備している。	災害訓練に取り組んでいるが、今後も運営推進会議を利用して夜間想定訓練を増やしていくことに期待したい。備蓄は食料だけでなく飲料水等も備え、避難場所を家族に伝えるなど、協力体制の整備に期待したい。

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者様の気持ちに添った言葉がけをするように心掛けている。	利用者には「さん」付けでやさしく呼びかけるよう心がけている。排泄時や入浴時の声かけや介助もさり気なく行い、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報に記載された書類は事務所内に適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも、思い、希望が言えるような環境・関係づくりを意識し思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その時に、要望希望また、不安なことを傾聴し、その人らしく安心して生活できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室サービスを受けている。また地域の理髪店にも出向いている。 その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの施行を把握している。食材を切ったり食器を洗ったり・拭いたりと一緒に作業する時間を作っている。無理なく一緒に行える環境づくりしている。	週2回程度職員が買い物に行き食材を購入している。献立はその日の冷蔵庫にあるものを利用して家庭と同じように料理している。利用者はお茶を配ったり、片づけをするなど自分の出来ることを行い、職員と一緒に話をしながら食事をしている。誕生日にはケーキの飾りつけを行うなど、楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し食事量の確認や献立ノート使用にて偏りのない食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い必要に応じてその都度一緒に行い口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。個人の排泄パターンの把握に努め、極力失禁等がないよう支援している。	現在はリハビリパンツの使用者のみでオムツの使用者はいない。排泄チェック表を踏まえ、生活リズムに沿ったトイレ誘導や声かけにより、利用者の自尊心に配慮した排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、水分補給をこまめに促し軽運動を実施し予防に努めている。また、ご家族様と相談し乳製品やジュース等で対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度の入浴を提供しているが、希望があった時、体調に合わせて入浴できるよう対応している。	体調により入浴回数が減ることもあるが健康時には週2~3回入浴している。入浴剤は肌に影響を及ぼす方もいるため使用していないが、季節感を得られるようにゆず湯等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じた休息ができるように支援している。また、就寝時は個人のタイミングに合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を確認や連絡ノートの活用等にて理解、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることをみつけ、日々の生活の中で役割や趣味が発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩、ドライブを支援している。また、本人の希望に添えるよう努めている。	1時間程度、市内のドライブを楽しんでいる。蓮池で錦鯉の餌やりをするなど、戸外へ出かけられるよう支援している。家族の協力を得て、家族も交えたレストランでの食事等も実施している。	



グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、ご家族様へ説明、了解を得てお小遣いをお預かりし、希望や必要に応じて使えるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族様の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養の空間では、不快な思いのないよう環境整備に努め、季節に沿って飾り物を一緒に作成、掲示し季節感や生活感のある居心地の良い場の提供に努めている。	高い天井には明かり窓を有し、リビング片隅には畳の間があり、明るく広々とした共用空間となっている。床はきれいに磨かれ、トイレでのパット等の排泄物はすぐに処理するなど匂いに気を配っている。清掃は出来る利用者と一緒に職員が毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者が気軽に座れたり、横になったり多目的に使用できる畳、ソファがあり思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れたもの、馴染みや愛着のある物を持ってきていただき居心地良く過ごせていただけるよう努めている。	ベッド・カーテン・たんすは備え付けでポータブルトイレや衣装ケースなど、使い慣れた家具が持ち込まれている。利用者の手工芸品や家族との写真を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸が居室扉と似ているため「トイレ」とわかるよう張り紙している。また、安全に生活出来るよう動線の確保等、環境整備に努めている。		